

安全データシート(SDS)

1、製品及び情報

製品名 :キョーエイPPシート K721B1
会社名 :共栄樹脂株式会社
住所 :兵庫県丹波篠山市西阪本461番地
担当部署 :コスト・品質管理室
連絡先 :Tel.079-593-1313
:Fax.079-593-1322

2、危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性 :分類できない

健康に対する有害性

急性毒性(経口) :分類できない

急性毒性(経皮) :分類できない

急性毒性(吸入)(気体)

(蒸気) :分類できない

(粉塵、ミスト) :分類できない

皮膚腐食性/刺激性 :分類できない

眼に対する重篤な損傷性/刺激性 :分類できない

呼吸器感作性 :分類できない

皮膚感作性 :分類できない

生殖細胞変異原性(変異原性) :分類できない

発がん性 :分類できない

生殖毒性 :分類できない

授乳影響 :分類できない

特定標的毒性/全身毒性-単回暴露 :分類できない

特定標的毒性/全身毒性-反復暴露 :分類できない

吸引性呼吸器有害性 :分類できない

環境に対する有害性

水生環境有害性(急性・慢性) :分類できない

GHSラベル要素

:非該当

3、組成・成分情報

単一製品・混合物の区分：混合物

成分名／化学名	含有量%	CAS No.	官報告示 整理番号	安衛法 通知対象	PRTR 法	国連分類及び 国連番号
エチレン・プロピレンコポリマー ポリエチレン	>70.0	9010-79-1	(6)-10	非該当	非該当	非該当
タルク	<26.0	非開示	非開示	非該当	非該当	非該当
酸化チタン (IV)	<1.2	13463-67-7	(1)-558	該当	非該当	非該当
ステアリン酸亜鉛	<0.1	557-05-1	(2)-615	該当	非該当	非該当
酸化アルミニウム	<0.1	1334-28-1	(1)-23	該当	非該当	非該当
添加剤	<2.0	非開示	非開示	非該当	非該当	非該当

4、応急処置

- 吸入した場合 : 高温の溶融物から発生するガスを大量に吸入した場合、被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移動させ、安静保温に努め医療処置を受ける。被災者が呼吸していて嘔吐がある場合は、頭を横向きにする。呼吸が止まっている場合、又は呼吸が弱い場合には、衣類を緩め呼吸気道を確認した上で人工呼吸（又は、酸素吸入）を行う。
- 皮膚に付着した場合 : 石鹼・水で充分洗浄する。
 溶融物が付着した場合は、付着した衣類・靴などを速やかに脱ぎ捨てる。
 製品に触れた部分を水又は微温湯を流しながら洗浄する。
 外観に変化が見られ、痛みが続く場合は、直ちに医療処置を受けること。
 溶融物が皮膚に貼り付いてしまった場合、患部に氷を当てるのではなく、氷水又は流水で冷やす。物質を皮膚から剥がそうとはならない。重度の組織損傷を起こすかもしれない。直ちに医師の診察を受ける。
- 目に入った場合 : 危険な物質ではなく、起こりにくいですが、切り屑などが入った場合、眼球が傷つく可能性があるため、清浄な水で最低15分は洗浄し直ちに眼科医の手当てを受けること。尚、洗浄の場合、眼球及び瞼の隅々まで水が行き渡るように洗浄する。
 コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。
 その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。
- 飲み込んだ場合 : 危険な物質ではないが、水でよく口内を洗浄し、コップ1～2杯の水又は牛乳を飲ませて、直ちに医療処置を受けること。可能であれば、指を喉に差し込んで吐き出させる。
 被災者に意識のない場合は、口から何も与えてはならない。少量ならば、できるだけ吐かせ、特別の処置は必要としない。
 下剤を投与してはならない。医師の指示がない限り、嘔吐させない。
- 医師に対する注意 : 熱傷を負っている場合は、除染ののち、熱による熱傷と同じように治療する。特別な解毒剤はない。暴露に対する治療は、患者の症状に応じて臨床的処置を行う。

5、火災時の措置

- 消火剤 : 霧状水、泡、粉末、二酸化炭素
- 使ってはならない消火剤 : 棒状水
- 火災時の特有の危険有害性 : 火災条件下で熱分解し、空気と混合して爆発性混合気を生じる恐れがある。
- 特有の消火方法 : 一般火災と同じ消火方法を用いる。また、火災においてポリプロピレンの熱分解や不完全燃焼により、一酸化炭素・炭化水素及びその酸化物・窒素酸化物系のガスなどが発生してこれらの吸入による危険が生じたり、視界が妨げられて消火活動上の障害となったりする場合があるので、状況に応じて適切な保護具を使用すること。
 火災発生場所の周辺に、関係者以外の立ち入りを禁止する。
 移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。

- 容器、周囲の設備などに散水して冷却する。
 消火活動は、可能な限り風上から行う。
 完全に水で濡らして冷却し、再発火を防ぐ。
 熔融した物質には直接放水しない。散細水で泡消火剤を用いる。
 火災場所を局所的にするために周辺を水で冷やす。
 小規模の火災には、小型の粉末消火器または二酸化炭素消火器を使用する。
- 保護具 : 状況に応じて、防火服・呼吸具を着用する。
- 消防士用の特別な保護具 : 陽圧式自給式呼吸器（SCBA）および防火服（防災ヘルメット、コート、ズボン、長靴および手袋を含む）を着用する。
 保護具が入手できないか使用できないときは、保護された場所から、または安全な距離をおいて消火活動を行う。
- 異常な火災および爆発の危険 : 運搬や他の機械的な取扱い操作により、可燃性粉塵が発生する可能性がある。
 粉塵爆発の可能性を軽減するため、粉塵の蓄積を避ける。
 十分な酸素のない状態で燃焼すると濃い煙が発生する。

6、漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 漏出した場所の周辺にロープを張るなどして、関係者以外の立ち入りを禁止する。
 作業の際は保護具を着用し、接触および粉塵の吸入を避ける。
 床に切れ端などがある場合は、すべりやすいので注意する。
 風上から作業し、風下の人を避難させる。
 高温熔融樹脂から発生するガスは眼、呼吸器に刺激性がある。
- 環境に対する注意事項 : 環境において長時間分解しないため、環境汚染の原因となるが、ポリマーの水溶解性は無視できるので、水生生物に対する毒性は弱いと思われる。
 環境への影響を起こさないよう、河川などに排出しない。
 海洋生物・鳥類が摂取することを防止する為に、いかなる場所でも放棄及び放出してはいけない。
- 回収方法 : 着火源となるものを近づけず、速やかにほうきや掃除機などを用いて紙袋又はドラムなどに回収する。二次災害を防ぐため、消火剤を準備する。
 熔融状態で漏出した時は、水等で冷却し、固化した後処理を行う。
 排水系などの水面へ漏出した場合は、捕集設備で回収する。
- 二次災害の防止策 : 周囲の着火源となるものを速やかに取り除く。
 火花が発生しない安全な用具を使用する。

7、取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策 : 防爆型の電気機器／換気装置／照明機器、及び火花を発生しない工具を使用すること。
 電気機器類は必要に応じ防爆構造の物を用い、静電気対策も行う。
 取扱い場所は換気を良くし、その周辺での火気、スパーク、高温物の使用は禁止する。
 吸入、皮膚への接触を防ぎ、又、目に入らないように適切な保護具を着用する。
 取扱い場所の近くには、手洗い、洗眼などの設備を設け、取扱い後に、手、顔などを良く洗う。
- 局所排気・全体換気 : 取扱う場合は、局所排気内又は全体換気のある設備のある場所で取扱う。
- 注意事項 : 使用前に取扱説明書を入手すること。
 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
 この製品を使用する時に、飲食または喫煙しないこと。
 粉塵、高温の熔融樹脂ガスが発生しない様に取り扱う。

ポリプロピレンは常温で引火、爆発のおそれは無いが、作業場の整理整頓に努める。
床面に切れ端などがある場合には、足元が滑って転倒を招くおそれがあるので、常に清掃し、取り除いておく。

成型加工では、熔融によって低分子量成分の揮発、臭気及び粉塵が生ずるので、これを排出するため有効な局所排気装置などを設置する。

溶融物との接触の防止のため適切な個人保護具を着用する。

成型残分は良く冷却してから廃棄する。

火気をみだりに使用しないようにし、静電気・衝撃火花などの着火源が生じないように注意する。

粉末状のポリプロピレンが存在する場合には粉塵爆発の可能性があるため、これらの滞留を避ける。

眼への接触を避ける。

保管

適切な保管条件 : 直射日光、高温、高湿、水分、強酸化剤を避け、屋内貯蔵とする。
火気、熱源より遠ざけて保管する。
荷崩れ、破袋防止のため、積みすぎを避ける。

安全な容器包装材料 : 製品使用容器に準ずる。

当該物質は消防法の指定可燃物（合成樹脂類）に該当する為、取扱いまたは貯蔵数量が 3000kg 以上となる場合には、所轄の消防署に届けなければならない。また、市町村条例に従い適切な防災処置を行わなければならない。

8、暴露防止及び保護措置

管理濃度 : 未設定

許容濃度 : 日本産業衛生学会と ACGIH は共に上記樹脂の粉塵に関する許容濃度は定めていないが次の値を準用するのが妥当と考えられる。

日本産業衛生学会勧告値	第三種粉塵	吸入性粉塵	2.0 mg/m ³
		総粉塵	8.0 mg/m ³
ACGIH 勧告値	その他の粉塵	呼吸性粉塵	3.0 mg/m ³
		吸入性粉塵	10.0 mg/m ³
酸化チタン (IV)			
日本産衛学会			0.3 mg/m ³
ACGIH	TLV-TWA		10.0 mg/m ³

設備対策 : 取扱い場所には、全体換気装置を設置すること。

できるだけ、密閉された装置・機器又は局所排気装置を使用する。

取扱い場所の近くに、洗眼および身体洗浄のための設備を設けること。

保護具 : 呼吸用保護具 加熱・粉砕・溶解など揮発性ガスや粉塵の発生するおそれがある場合には状況に応じて着用する。

保護眼鏡 加熱・粉砕・溶解など揮発性ガス・粉塵・飛散物などが予想される場合には、サイドシール付きの保護眼鏡もしくはゴーグルを着用する。

保護手袋 常温での取扱いには特に必要ない。皮膚接触は最低限にする。負傷しないように手袋をする。加熱され高温となったものに触れる場合には、断熱性の保護手袋を着用する。溶液で取り扱う場合には、溶媒の性質に応じた不浸透性の保護手袋を着用する。

皮膚及び身体の保護具

安全帽、安全靴、保護服

経口 衛生状態を良好に保つ。作業場所での飲食や、食物の保管をしないこと。喫煙や食事の前には手を洗う。

9、物理的及び化学的性質

外観	: シート状の固体
比重	: 1.11~1.13
融点	: 155~170℃
引火点	: データなし
自然発火温度	: >270 (℃) ASTM E659
燃焼又は爆発範囲	: データなし
溶解性	: 水・アルコール類には不溶である。 強酸・強アルカリに耐える。 一般の溶媒には不溶である。デカリン・テトラリン・ベンゼン等に高温で溶ける。 トルエンには膨潤する。
分解温度	: データなし
可燃性	: あり 完全燃焼では、水と二酸化炭素を生成する。 通常の火災では有毒な一酸化炭素ガス・炭化水素及びその酸化物・窒素酸化物系のガスなどを生じるおそれがある 消防法指定可燃物

10、安定性及び反応性

安定性	: 通常の取扱いでは安全である。
危険有害反応可能性	: 酸化剤と反応する。 通常の条件下では安定であるが、摩擦等で粉体化された場合には粉塵爆発を引き起こす可能性がある。火災条件下で熱分解し空気と混合して爆発性混合気を生じる恐れがある。
避けるべき条件	: 直射日光、高温、高湿を避ける。
混触危険物質	: 酸化剤との混合、接触を避ける。
危険有害な分解生成物	: 一酸化炭素、炭化水素及びその酸化物、窒素酸化物系のガスなど

シート状のポリプロピレンは常温において引火、爆発の危険性は無く、一般の取扱い及び貯蔵において安定で反応性は無い。しかし、過度に加熱されると分解し刺激性及び引火性のガスを発生するおそれがある。

11、有害性情報

製品としての情報はなし。

エチレン・プロピレンコポリマー

急性毒性 (経口)	: データなし
急性毒性 (経皮)	: データなし
急性毒性 (吸入) (ガス)	: データなし
(蒸気)	: データなし
(粉塵、ミスト)	: データなし
皮膚腐食性/刺激性	: データなし
眼に対する重篤な損傷性/刺激性	: データなし (樹脂の乾燥時及び溶融樹脂から発生するガス・ヒュームは眼及び皮膚を刺激する。)
呼吸器感作性	: データなし
皮膚感作性	: データなし
生殖細胞変異原性 (変異原性)	: AMES 試験 : データなし 染色体異常試験 : データなし
発がん性	: IARC のグループ 3
生殖毒性	: データなし
特定標的毒性/全身毒性-単回暴露	: データなし

特定標の毒性／全身毒性－反復暴露 : データなし
 吸引性呼吸器有害性 : データなし

酸化チタン (IV)

急性毒性 (経口) : 区分外
 急性毒性 (経皮) : 区分外
 急性毒性 (吸入) (ガス) : GHS 定義における固体である。
 急性毒性 (吸入) (蒸気) : データなし
 急性毒性 (吸入) (粉塵) : 区分外
 皮膚腐食性／刺激性 : 区分外
 眼に対する重篤な損傷性／刺激性 : 区分外
 呼吸器感作性 : 分類できない
 皮膚感作性 : 分類できない
 生殖細胞変異原性 (変異原性) : 分類できない
 発がん性 : 区分2
 生殖毒性 : 分類できない
 特定標の毒性／全身毒性－単回暴露 : 分類できない
 特定標の毒性／全身毒性－反復暴露 : 区分1 (ヒトに関する情報はない)
 吸引性呼吸器有害性 : データなし

ステアリン酸亜鉛

急性毒性 (経口) : 区分外
 急性毒性 (経皮) : 区分外
 急性毒性 (吸入) (ガス) : GHS の定義による液体である。
 急性毒性 (吸入) (蒸気) : 分類できない
 急性毒性 (吸入) (粉塵、ミスト) : 区分外
 皮膚腐食性／刺激性 : 区分外
 眼に対する重篤な損傷性／刺激性 : 区分外
 呼吸器感作性 : 分類できない
 皮膚感作性 : 分類できない
 生殖細胞変異原性 (変異原性) : 分類できない
 発がん性 : 分類できない
 生殖毒性 : 分類できない
 特定標の毒性／全身毒性－単回暴露 : 分類できない
 特定標の毒性／全身毒性－反復暴露 : 分類できない
 吸引性呼吸器有害性 : 分類できない

12、環境影響情報

製品としての情報はなし。

ポリプロピレン／ポリエチレン

水生環境有害性 (急性) : データなし。
 水生環境有害性 (慢性) : データなし。

酸化チタン (IV)

水生環境有害性 (急性) : 分類できない
 水生環境有害性 (慢性) : 分類できない

ステアリン酸亜鉛

水生環境有害性（急性） : 分類できない
水生環境有害性（慢性） : 分類できない

海洋生物・鳥類が摂取することを防止する為に、いかなる場所でも放棄及び放出してはいけない。

1 3、廃棄上の注意

残余廃棄物 : 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託し、関係法令を遵守して適性に処理する。
焼却処理を行う場合
1) 可燃性溶剤に溶解又は混合し、アフターバーナー及びスクラバー付きインシナレーターの中で焼却する。
2) 焼却室の温度は完全に分解させるために、800℃以上に保持する。
汚染容器・包装 : 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に法規に従い処分する。

1 4、輸送上の注意

国連分類 : 未分類
輸送の特定の安全対策及び条件
: 容器の破損、漏れがないことを確かめ、転倒、落下、損傷のないよう積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。
輸送中は、直射日光、異物、水の混入を避けるため、カバーシート等をかける。
一般の可燃性プラスチック・ゴム類に準じて、荷役作業時は着火源のない風通しの良いところで行い積荷の近くは火気厳禁とする。
トラック輸送時には通気性を考慮の上、シート掛けを行い、同時に輸送トラックには消火器を備える。包装紙が破れないように、水濡れや乱暴な取扱いは避ける。

1 5、適用法令

消防法 : 指定可燃物（（合成樹脂類）発泡させたもの：20m³、その他のもの：3000kg）
船舶安全法 : 該当せず（船舶による危険物の運送基準等を定める告示）
航空法 : 該当せず（航空機による爆発物等の運送基準等を定める告示）
P R T R法 : 該当せず
労働安全衛生法 : 酸化チタン（IV）、ステアリン酸亜鉛、酸化アルミニウム
毒物及び劇物取締法 : 該当せず

1 6、その他情報

- ・本「安全データシート」は、現時点で入手可能な資料や情報に基づき作成されており、新しい知見により改定されることがあります。
- ・記載内容は、プラスチックシートを2次成型加工すると想定したものになっておりますので、それ以外の特殊な用途に利用される場合には、使用者の責任において予め調査及び試験を行い、適切な安全対策を実施してください。
- ・記載内容は情報提供であって、保証するものではありません。